



をしていませんが時間はどこにいても大体
 わかりますし、誰かに聞けば教えてくれま
 す。携帯電話も持っていないので出先でネッ
 トでの検索はできませんが、知らない街でも
 地元の人においしい店を案内してもらうこ
 とはできます。最近では、いきなり話しかけ
 ると不思議な顔をされますが、ひと昔前で
 は街中で誰かに何かを聞くことはあたりま
 えのことでした。人との出会いやふれあいか
 ら、喜びや発見が生まれる。それも、不便だ
 からこそその楽しさだと思います。」



アイデア出しは手書きがいい。



**人から手間を奪うのではなくて、
不便も楽しめるような未来を。**

便利であることと不便であることのバ
 ランスについて、聞かせてください。

「私は『不利益』について研究をしてい
 ますが、不便の益を楽しむために必要な
 便利さがあると思っています。車でいえば、
 全てを機械に任せっきりにするオートマ
 チックの自動運転ではなく、自分の手で
 運転しながら好きなタイミングで変速で
 きるマニュアルトランスミッション。思いど
 おりに運転できるという楽しい手間をか
 けられるようにするためには、しっかりとし
 た変速機構を作らなければなりません。木
 造の家でいえば、自分でメンテナンスでき
 るような家を建てたいと思ったら、それが可能に
 なるように安心できる強度の家を設計する
 こと。技術の進歩で
 人から手間を奪う
 のではなく、好きな
 ことをするための
 便利さこそが必要
 なんですよね。」



鉛筆も自分の好みで、
スクリー状に削ったり。

では川上先生が考える、いい未来って、
 どんなものでしょうか？

「人が関わる手間を省くことだけが進
 化ではないはずだと、私は思っています。例
 えば、公園の遊具が危ないからという理由
 だけでそれを撤去してしまうのも、いわば
 自動化と同じことなんですよね。子どもた
 ちから遊ぶという選択肢を奪ってしまうの
 ではなく、安心して遊べるような遊具を開
 発すること。それは難しいことかもしれま
 せんが、未来の技術革新は、その方向に進
 むべきではないでしょうか。」

私がイメージする未来とは、けっして便
 利を否定するものではありません。便利が
 いいと思う人には、便利であることも、不便
 であるからこそその手間を楽しむこともど
 ちらの選択肢も用
 意されていること。
 科学技術の発展は
 不便を存分に楽し
 むためにも活用さ
 れているのが、望む
 べき未来の姿なので
 はと考えています。」



いつも盛り上がる。
 「不便は手間だから役に立つ!？」を伝える講演会。